

令和6年度の研究(または活動)内容

1) 仙台市八木山地域を中心とした活動

・**仙台八木山防災連絡会** 2024年度も引き続き、日頃からの世代間交流、小中高大などの若者とその親世代の参画を目指して、八木山市民センターと計画し、八木山中学校生徒と「地域防災シンポジウム in 八木山」の企画を行った。今年度の「地域防災シンポジウム in 八木山」は、昨年作成した段ボールジオラマも使用しながら、非常食づくりなども企画し実施した。

・**八木山地区医療介護連携の会「八木山^{やぎさん}ネットワーク** 2023年度はコロナ禍で学んだことを意識しながら慎重に再開していたが、今年度はコロナ禍以前のように企画運用を行うことができた。7月(第15回)「災害時の連携を日常に」、11月(第16回)「ターミナルケアを考える」、2月(第17回)「皮膚トラブル・褥瘡予防」を開催し、50名から60名の医療介護関係者が集う交流や意見交換の場となった。

・**八木山まちづくりプロジェクト** 並河氏の協力のもと、これまで設置した仙台市まちなか歩数表示板を使ったこれまでの「八木山ハープまちづくり」活動と合わせて行った。また主体的な活動メンバーとなりうるキーパーソンの方に集まっていただき、活動の意見交換などを行った。「八木山みんなのカフェ」では、高齢者のスマートフォン利用の課題解決に向けた活動も山口氏の協力のもと、実施しつつ、世代間交流の場となるような企画として、タケノコ取り体験、モルックやポッチャ体験、凧づくり、動物園や東北放送との交流会などを行った。また、今年度は「太白区地域福祉活動積立金活用事業」に申請し、「わんわん・おさんぽパトロール交流会」も行った。八木山地域で2022年から実施する「わんわんパトロール」と「おさんぽパトロール」として見守り活動している方々の交流を深め、さらなるメンバーの増員や活動の継続につなげた。

・**ございん八木山** 地域拠点としての方向性を探る3年目をむかえ、運営体制の変更もあり、2024年度は「区民協働まちづくり事業助成事業」として共同研究を実施した。菊地教授、坪子氏、佐藤友章氏らによる環境整備や手わざ講習会も行った。手わざ講習会では手漉き和紙工房潮紙の塚原氏、「スマホを学ぼう」では山口氏にも協力をいただいた。今年度は、調査(卒業研究:林楓也)により、高齢者層や一定のターゲットを対象に行われていると誤認があることもわかり、周辺住民のニーズや実際の活用を重視することに努め、パンフレット配布方法や地域内での別イベントでの告知や口込みなど、工夫して進めていった。子ども連れの参加や新規の周辺住民の参加も見られるようになった。

・**子ども参画壁絵描き事業「でっかい夢を描こう」** 仙台市八木山市民センター主催の子供参画壁絵描き事業は、2012年から2024年の12年間継続する事業として行われてきた。これまでの変遷と課題を整理し、昨年度からの中学生の企画員としての参加についても評価を行った(卒業研究:難波龍世)。子どもたちの主体的な地域活動参加や世代間交流、地域への愛着等に向けて今後の事業のあり方も検討する必要がある。



八木山みんなのカフェ「モルック」

ございん八木山「手わざ講習会:和紙づくり」 子ども参画壁絵描き事業「でっかい夢を描こう」

・**八木山地域の空き家空き地調査と利活用検討** 今年度は、必要に応じプライバシーの保護に配慮しつつ、地域内外にフィードバックを行った。更なる調査や事業を目指し、「令和7年度 地域づくりパートナープロジェクト推進助成事業(課題調査検証助成)」への申請の準備を行ったが、不採択となった。

2) 仙台市秋保地区を中心とする活動

・**野尻いぐるす会(野尻町内会)** 高齢化と人口減少の課題を抱えた地域で、住民らが主体的に生き生きと活動が継続するために、with コロナ、関係人口増加や人材育成などに配慮しながら活動を行った。毎月の定例会には菊地教授や小嶋氏が参画し、アドバイスや支援を行った。

・**秋保地区の福祉系交流とまちづくり事業「秋保くらしの座談会」から活動の可視化へ** 2022年度より仙台市社会福祉協議会太白区事業所と秋保総合支所保健福祉課と連携し、秋保地域住民の抱える課題を住民と支援機関が共有し、解決のために住民が主体的に協働する活動の開始や促進を働きかけてきた。2023年度より、「健康」、「交流」、「文化」、「継承」など、様々なキーワードで、ウォーキングや交流会などの活動が始まった。今年度は、地域の人材や団体を貴重な地域資源として可視化、「ガイドブック」として紹介することを提案した(卒業研究:千葉凜)。3月に行われた「秋保くらしの座談会～私たちの活動報告会～」では、仙台市秋保食生活改善推進員会、秋保ひだまり縁側の会、湯元児童館子育て支援クラブ「ひまわり」の報告があり、積極的な意見交換が行われた。今後の展開として、人材マップや伝統食などの可視化へのニーズもあることも分かった。

・シンポジウム「これからの地域のくらしと工芸 vol.5」 工芸産地のつながりを目指して

手しごと AKIU は、手しごとの異業種集団であり、業種は「工芸」・「食」・「農業」・「観光」にいたるメンバーで構成され、集客・交流を図る活動を基本に「工芸のまち・秋保」づくりを目指している。今年度3月開催のシンポジウムでは、熊野氏や菅原氏により、これまでの活動を振り返りながら、中嶋氏の講話をきっかけに IT 化やライフスタイルの変化が進む現代において、「くらしの中で生き続ける工芸」をどのように構築していくべきかを参加者とともに考えた。菊地教授の進行により、伝統を継承しながらも、新しい視点を取り入れ、持続可能な地域産業としての工芸の未来を探る機会となった。



2025年
3月10日(月)
16:00▶18:00

【主催】手しごとAKIU
【共催】東北工業大学 地域づくり共創デザイン研究所
東北工業大学 地域連携センター
【協力】みやぎ地産地消推進協議会
【後援】(公財)仙台観光国際協会
【お問合せ】東北工業大学 地域連携センター (担当/高橋・佐藤)
〒982-8577 仙台市太白区八木山春穂町30-1 (1号館1階)
TEL 022-305-3801 FAX 022-305-3808
Email rc-center@tohoku.ac.jp
http://www.rc-center.tohoku.ac.jp/
【申込URL】 <https://forms.office.com/e/VJlkaJ428E>

シンポジウム参加申込
申込フォームに必要事項を入力の上お申込みください。

秋保地区社会福祉協議会

私たちは日々こんな活動をしています!

秋保ひだまり縁側の会が企画したウォーキングイベント
秋保地区の活性化に貢献
秋保地区の活性化に貢献
秋保地区の活性化に貢献

秋保地区社会福祉協議会
秋保地区社会福祉協議会
秋保地区社会福祉協議会

プログラム
進行: 菊地 良寛氏
(東北工業大学 地域連携センター)

開催宣言 (16:00~16:10)
開催挨拶 (16:10~16:15)
手しごとAKIU/東北工業大学 地域づくり共創デザイン研究所

話題提供 (16:10~16:50)
これからの手しごとAKIUの活動とこれから期待すること
菅原 玲氏 (石巻専修大学 経営学部 講師)
アプローチの違いによるデザイン
中嶋 敏氏 (南ジョマデザイン代表取締役社長)

ディスカッション (17:00~17:55)
これからの地域の工芸の在り方へ他地域間連携へ
進行: 菊地 良寛氏
秋保・時松の想いを集めて「AKI・TOEI継承協議会」/各産地紹介 / 手しごとAKIUの取組に関しての感想 / これからの工芸の取組拡大戦略 (「消費者から愛用者へ」/「他地域間連携」/「作り手・使い手・つなぎ手」)

閉会挨拶 (17:55~18:00)
佐藤 明氏 (東北工業大学 地域連携センター)

「秋保くらしの座談会」から活動の可視化(千葉作成ガイドブック)

「これからの地域のくらしと工芸 vol.5」工芸産地のつながりを目指して

3) その他の活動

(1) 岩手県洋野町「おおのキャンパス」活性化構想策定

洋野町の「おおのキャンパス」と東北工業大学の連携は、1978年から東北工業大学 第三生産技術研究室が旧大野村で関与した『裏作工芸導入による実践的研究「一人一芸の村づくり」』から始まるものである。経年による施設の老朽化、社会や時代の変化等により集客や経営面などにも様々な課題を抱えており、施設改修を含めた再編・再生に関する相談が 2023 年より洋野町役場地域振興課からあった。そこで、今年度は「おおのキャンパス」のソフト・ハードの両面の諸課題調査及びその解決策を探りつつ、具体的な再生の途を描くための、活性化に向けた構想策定事業に取り組んだ。5月に第1回おおのキャンパス活性化検討委員会(委員長は菊地良覚教授)が行われ、学生らを伴う現地調査、洋野町全戸配布や Web など町民や利用者、小中高生、従事者、生産者、関係する団体などへの調査を行い、調査や分析結果などを報告しながら、構想策定を行った(卒業研究:三浦翔瑠・菊地健将)。調査や分析には、川島教授、阿部氏、佐藤明氏、山口氏、須藤氏、菅原氏、小嶋氏などにもご尽力いただいた。

(2) 長町地区の福祉系交流とまちづくり事業「長町つながるミーティング」からの長町まちづくり活動

2023 年度、仙台市社会福祉協議会太白区事務所、長町地域包括支援センター、太白区役所の主催により、地域における支え合い体制づくり推進のための交流会が開催された。今年度はその事業から地域での活動がどのように展開されているかを調査するとともに活動参画を行った(卒業研究:高橋ほのか)。

(3) 秋岡芳夫・時松辰夫の継承協議会(仮称)とみやぎ地場産品開発流通研究会

2024年6月28日から7月2日、一番町ロビーにて展示会「くらしの中のクラフト展～涼を見つける夏のくらしに工芸を～」を行った。今回の展示会では、元東北工業大学工業意匠学科長秋岡芳夫教授が提唱した「消費者から愛用者に」を原点に、みやぎ地場産品開発流通研究会や北海道置戸町オケクラフト、岩手県洋野町大野木工、熊本県伝統工芸館、アトリエときデザイン研究所などの工芸産地や工房が連携して開催した。

また継承会としては、11月の手しごと AKIU 主催「あきうクラはく」へのオンライン参加とその後の意見交換や情報共有を行った。この会議では、特に技術継承の取り組みについて議論され、木工製品の生産や材料調達に関する課題、地元の木材活用や行政との連携、そして時松先生の弟子たちのネットワーク作りなどが話し合われた。さらに、若い世代を巻き込んだ地域に根ざした活動の必要性が強調された。

3月のオンラインシンポジウム「これからの地域のくらしと工芸 vol.5」の参画も促し、課題の共有につなげた。

(4) 登米市津山町「道の駅津山もくもくランド」を中心とする活動

2021年度の「道の駅津山もくもくランド」復興活性化構想策定(ランドデザイン策定)を行い、2022年度に店舗レイアウトなどの再開準備事業、2023年1月に営業再開した。2023年度は空きスペース活用に向けた検討や外構植栽整備を行い、今年度は、学生教員でフィールドワークなどを行い、2025年度、活性化事業の具現化に向けた打ち合わせを行った。

(5) 東北工業大学製品安全シンポジウムの開催に向けて

第10回開催を迎える「東北工業大学製品安全シンポジウム」について、今年度は一番町ロビー閉館などもあり、実行委員長の中島氏らと開催内容の検討に重点をおき、2025年8月開催を目指すこととした。